

経営比較分析表（令和5年度決算）

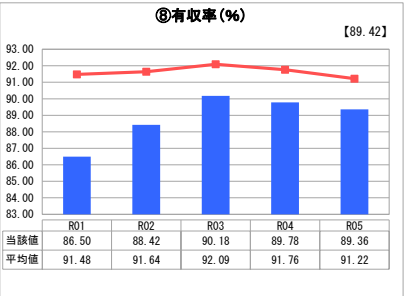
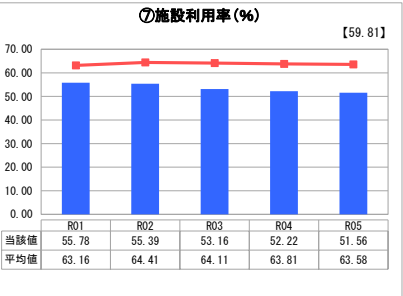
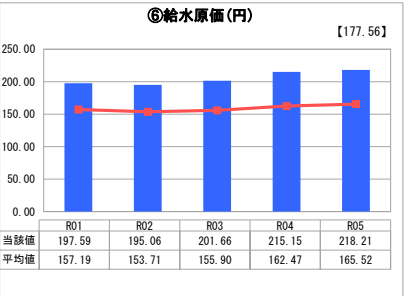
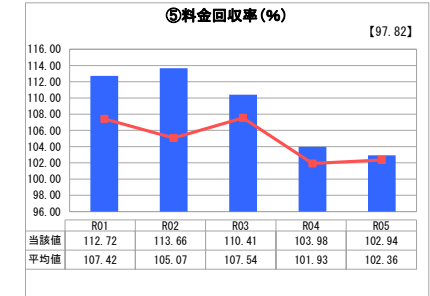
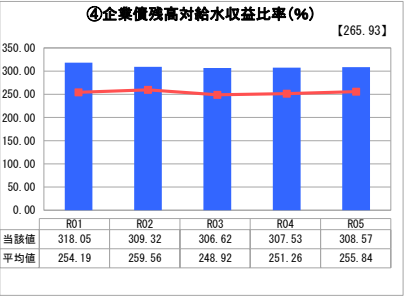
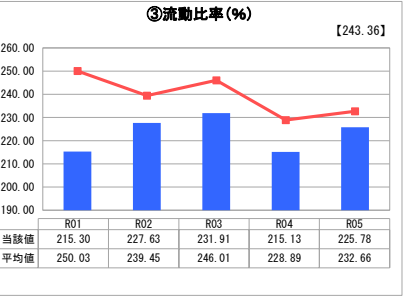
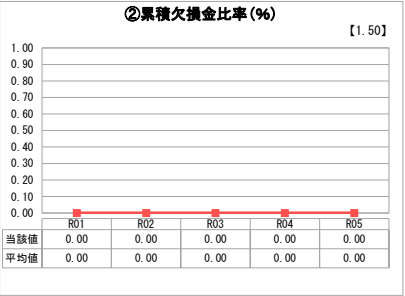
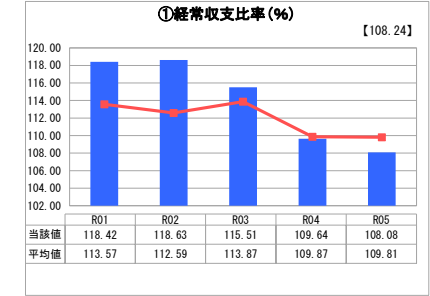
福島県 いわき市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)	
-	73.30	102.24	3,729	

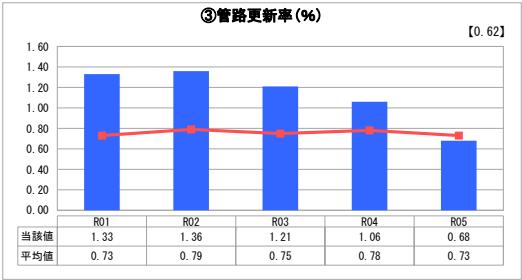
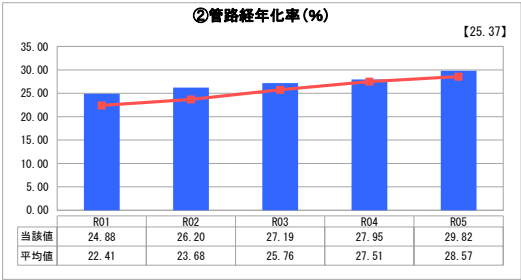
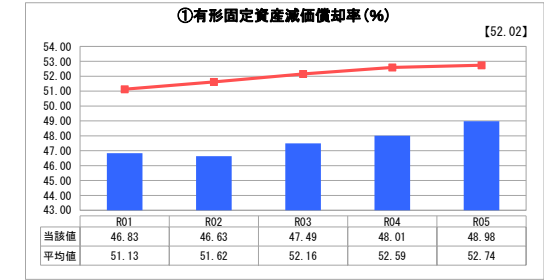
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
306,714	1,232.51	248.85
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
311,605	466.03	668.64

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

給水人口の減等に伴う有収水量の減による営業収益の減少や、労務単価の増に伴う委託料の増による営業費用の増加により、前年度と比べ経営状況が悪化しています。健全性は概ね保たれています。

「①経常収支比率」は類似団体平均を下回ったものの、100%を上回っており良好な数値です。

「③流動比率」は100%を上回っており、短期的な財務状況は良好です。

「④企業債残高対給水収益比率」は、令和4年度から企業債残高に対し給水収益が大幅に減となったため悪化しています。令和5年度は前年度に比べ1.04ポイント悪化しました。

「⑤料金回収率」は100%を上回っており給水に係る費用が水道料金で賄われていますが、悪化が続いています。

「⑥給水原価」は、類似団体平均値を上回っていますが、広域で起伏に富む地勢、中小川への依存により施設を多く抱えているなどの要因によって、より多くの給水コストがかかっているためです。

「⑦施設利用率」は、類似団体平均値を下回っていますが、水需要の低下による配水量減少が理由として挙げられます。

「⑧有収率」は、東日本大震災の影響により一時75%程度まで低下し、その後、老朽管更新事業により徐々に改善し、令和5年度においては震災前の水準(88.9%程度)とほぼ同じ状況となりました。

2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」は、類似団体平均値を下回っています。

「②管路経年化率」は、類似団体平均値を上回っています。

「③管路更新率」は、類似団体平均値を下回りました。本市は「新・いわき市水道事業経営プラン」の最重要事業として、また、「いわき水みらいビジョン2031」の主要事業として位置付けされている老朽管更新事業などに取組んでいます。令和5年度は老朽管更新事業における債務負担行為の設定工事の増加等により目標値の1.00%を下回っている状況ではありますが、令和4年度から令和8年度平均で管路更新率1.00%達成を目標に更新を進めていくこととしています。

全体総括

経営の健全性は概ね良好ですが、給水収益の減少により悪化していくことが見込まれます。

施設の効率性については、類似団体平均値を下回っており、ダウンサイジングなどの施設の効率化に取組む必要があります。

老朽化については、管路経年化率が類似団体平均値と比べ高い状態にあることから、現在、老朽化対策を強化し、計画的に老朽管更新を進めています。

今後、人口減少に伴う水需要の減少や水道施設の更新需要の増大により、経営の健全性及び効率性、老朽化の状況は悪化していくことが見込まれることから、令和4年1月に新たに策定した経営プランである「いわき水みらいビジョン2031」に位置付けた事業を着実に実施し、経営の効率化などによる財政基盤の強化や水道施設の計画的な更新を進めることで、これらの課題に適切に対応していきます。